

企業情報

CKD 株式会社

所在地 / 本社：愛知県小牧市応時 2-250
 東北工場：黒川郡大衡村松の平 2-18
 TEL 022-344-3501
<https://www.ckd.co.jp/>



代表取締役社長 / 梶本 一典
 資本金 / 110 億 1,600 万円
 設立 / 1943 年 4 月
 従業員数 / 177 人 (東北工場：2019 年 6 月現在)
 事業内容 / 自動機械装置及び省力機器、空気圧制御機器、駆動機器、空気圧関連機器、ファインシステム機器、流体制御機器など機能機器の開発・製造・販売・輸出
 企業理念 / 私達は創造的な知恵と技術で流体制御と自動化を革新し豊かな社会づくりに貢献します。

子どもの頃から、自分の手を動かして何かを作ることが大好きだったという倉本さん。工作が得意で、紙をはさみで切ったりノリで貼ったりして遊んでいたのだそう。高校は地元にある黒川高等学校に進学し、環境工学科で学んだ。「建築について学んだり、木製の棚を製作したり。ものづくりに関する実習が多くて楽しかったです」と振り返る。

入社1年目は愛知県へ 新しい仕事のノウハウを学ぶ

「スムーズに作業を進めるため、チームワークが欠かせません。私も積極的に意見を出して、リーダーやメンバーとコミュニケーションを図っています」と倉本さんは話した。

数千から数万点の部品が集積
 組み立てにはチームワークが不可欠

同社は、工場向けの機械メーカーで、自動機械装置や省力機器、空気圧機器などを製造している。手掛ける製品は数十万アイテムを超え、自動車・家電・半導体・医薬・食品など幅広い産業分野において、ものづくりの自動化を支える。

2019年2月に稼働した東北工場では、半導体の製造に使う浄水や薬液、薬ガスなどの流量や圧力を高精度でコントロールする半導体製造装置向けの流体制御機器などを製造している。「流体」とは、気体と液体の総称のこと。同工場では、徹底管理さ

れたクリーンルーム内でものづくりが行われ、不純物や汚れが厳禁の半導体製造現場のニーズに対応する。

「完成したばかりの工場はどこもピカピカです。明るくきれいな環境で仕事をするので、とても気持ちが良いですね」と倉本さんは笑顔だ。

倉本さんは、ほかの6人のメンバーと協力して、薬ガス供給ユニットの組み立てから検査を行っている。数千から数万点にも及ぶ部品がコンパクトに集積されているユニットの組み立ては手作業で進められ、製品によっては7人がかりでも完成までに3日ほどかかるという。



小さなパーツを組み合わせ
お客様の願いをカタチにする

図面を見て製品の組み立てに使う部品をチェックする倉本美紗さん

「世界のFAトータルサプライヤー」を目指す CKD株式会社

CKD 株式会社は、自動化 (FA) 技術のパイオニアとして、常に時代のニーズを先取りした、様々な製品を研究開発してきました。現在、国内7工場とアジアにある海外5工場で生産された数十万点にも及ぶ製品が、幅広い産業分野で活躍しています。

自動機械装置

創業以来の伝統を受け継ぐ「照明製造システム」をはじめ、医薬品・食料品を中心とした「自動包装システム」やリチウムイオン電池などの「二次電池製造システム」、「はんだ印刷検査機」など、産業の垣根を越えた多様な自動機械装置を製造しています。



薬品包装機

機器製品

水・空気・ガス・蒸気・油などの流体を制御し、有効に活用するためのユニットやシステムの開発は、同社の技術領域の重要な柱です。空気圧機器や流動制御機器、半導体用ファインシステム機器、省力機器など、豊富な機器商品がものづくりを支えています。



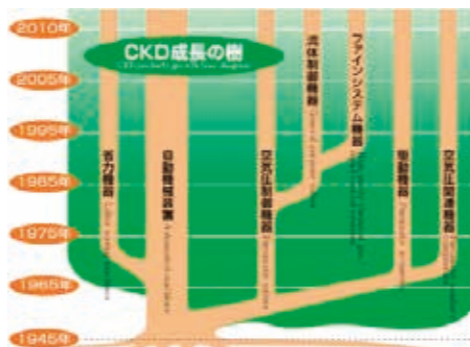
集積化ガス供給システム



空気圧シリンダ



助力装置



CASE 01 仕事 図鑑

多種多様な自動化・省力化機器で ものづくり産業の「働き方」を変える

製造 倉本 美紗さん (22 歳)
 CKD 株式会社 東北工場 (大衡村)

半導体製造装置に搭載する
薬ガス供給ユニットの組み立てを担う

室内の温度や湿度が一定に保たれ、空気中の塵やほこりなどをカットし、微粒子レベルできれいに管理されたクリーンルーム中ではクリーンスーツに全身を包んだ倉本美紗さんが、手に取った部品と図面を照らし合わせ、防護用のゴーグル越しに真剣な眼差しを送っている。

これから取り掛かる作業は、半導体製造装置に搭載される「薬ガス供給ユニット」の組み立てだ。半導体の材料であるシリコンウェーハの加工に使われるガスなどの供給をコントロールする装置で、倉本さんが働くCKD株式会社東北工場の主力製品の一つである。

「組立工程は、小さなミスでも部品そのものが使い物にならなくなってしまうことがあります。コストや時間のロスが生まれますし、その部品の製造に関わった全ての人に迷惑をかけてしまうことになるため、『私に任された仕事は、最後まで責任を持ってやり遂げるぞ』という強い気持ちで取り組んでいます」

そう話す倉本さんは、同工場で徹底されている「ワンアクション・ワンチェック」を実践。こまめな確認を意識し、安全で正確な仕事を心掛けています。

「組み上がったユニットが無事に検査をクリアして初めて安心できますし、頑張り が形になったと実感できるんです」



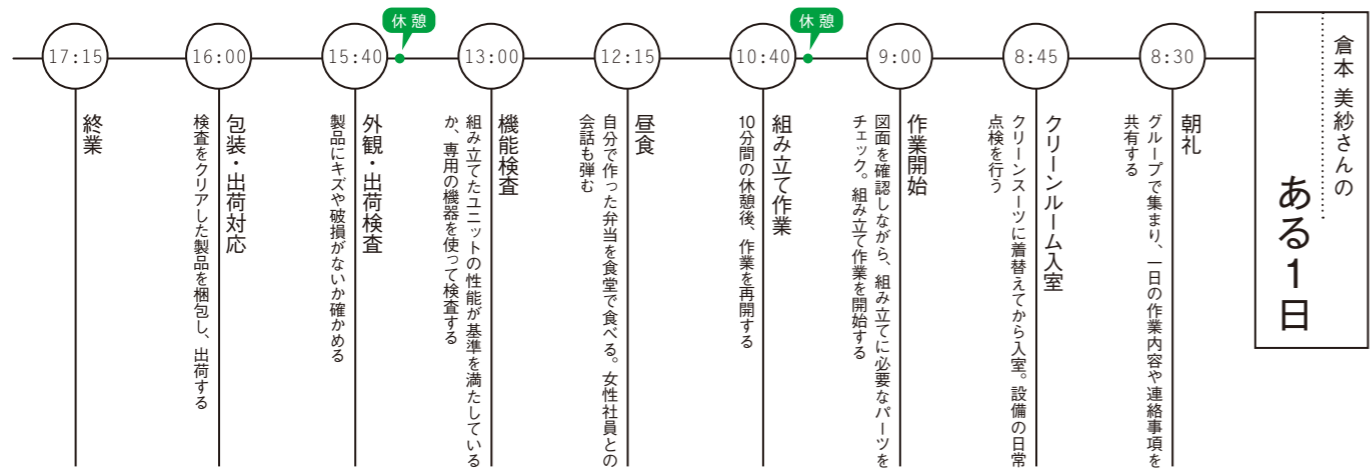
リーダーからの作業の流れや役割分担などについての説明に耳を傾ける



リストで確認しながら組み立てに必要な部品を集める



クリーンスーツやマスク、ゴーグルを着用。気持ちを「仕事モード」に切り替える



休憩時間はクリーンルームから退出する。休憩室で同僚との会話で盛り上がる



出荷する製品にキズなどが見られないか外観を検査する



専用の測定器を使って組み立てたユニットの性能を検査する

**未来のACEへ
先輩からの
アドバイス**

当たり前のことかもしれませんが、自分が好きな分野、興味がある分野で働くことが一番です。仕事に対するモチベーションが違いますし、苦勞も楽しく乗り越えることができます。いい職場を見つけたら、高校生のうちから好きなことに精一杯打ち込みつつ、興味のあることを増やしていくことだと思います。

どんな仕事でも失敗や悩みはつきものです。そんな時は一人で抱え込まないで、先輩や上司に相談してください。きっと良い方向に導いてくれますし、その経験が今後の仕事に必ず生きるはずです。

ここ東北工場のように、ものづくりの仕事でもきれいな環境や作業中に体に負担が掛からない設備が整っていて、女性も活躍できる職場があります。多くの女性のみならず、興味を持ってくれたらうれしいです。



上司に聞く

生産部 製造2G
クループリーパー
宮西 進さん

チームの「紅一点」でムードメーカー 女性リーダーとしての今後の成長に期待

チームでただ一人の女性メンバーである倉本さんは、男性メンバーと積極的にコミュニケーションを図って業務にあたってくれています。

一つの製品をチームで時間をかけて完成させる薬ガス供給ユニットの組立工程では、メンバー間のちよつとした意思疎通の乱れが、納期の遅れにつながりかねません。倉本さんは、男性メンバーの間に入り、持ち前の明るさと細やかな気配りでチーム内の良好な雰囲気づくりを支えています。

東北工場では、女性が活躍できるようにさらに採用と環境整備に力を入れていく予定です。倉本さんには、東北工場一期生の女性社員として、後輩たちを引っ張ってほしいと思っています。責任感とリーダーシップを持った倉本さんなら、私たちの期待に十分応えてくれると信頼しています。

しながら組み立てた製品が完成した時や、その製品が検査を無事にクリアし出荷された時、倉本さんは大きな達成感を得ることができたという。

**人の「笑顔」がモチベーション
ものづくりができる喜びを実感**

完成した薬ガス供給ユニットは、半導体製造装置メーカーに届けられ、装置に搭載される。その装置が世界中の半導体メーカーで半導体を生み出し、私たちの生活に欠かせないスマートフォンや電化製品、自動車などに使われている。倉本さんは、「取引先のお客様が喜ぶ顔や、半導体が使われている製品で便利な生活を送る人たちの笑顔を想像するとうれしいです」と話す。

「人の力で何もないところから部品を組み立てて形あるものを作り出すことができるところ。そこがものづくりの面白いところなんです。大好きなものづくりができる幸せをかみしめ、半導体製造を支える今の仕事に対する誇りとやりがいを感じている。

「将来は周囲から頼られ、どんな現場も任されるような存在になりたいですね」と抱負を語る。でも今はまだ知識も経験も足りない。そのため、ほかの工程や別の製品も経験し仕事の幅を広げたいと思っているという。

新しい環境で、新しい仲間と、新たなものづくりに取り組む。倉本さんの挑戦は始まったばかりだ。



2019年2月に稼働した東北工場。自動倉庫を初めて導入するなど作業の省力化・自動化を図り「人にやさしい工場」を目指す

CASE
01

**仕事
図鑑**

多種多様な自動化・省力化機器で ものづくり産業の「働き方」を変える

製造
倉本 美紗さん (22歳)
CKD 株式会社 東北工場 (大衡村)

100年の伝統技術を次世代につなぐ 株式会社ヤマニシ

同社では、創業以来磨いてきた船舶の製造や修繕のノウハウを生かし、様々な分野で事業を展開しています。

新造部門

貨物船やフェリーといった総トン数10,000トンクラスの大型船舶や、漁業実習船や官公庁の船舶など様々な船舶を作っています。最新の船舶技術を生かし、省エネや環境面への配慮、バリアフリーへの対応など、現代のニーズに応えています。



琉球エキスプレス

修繕部門

船舶の修理や定期検査を行い、安全な航行を支えています。船の製造や修繕などを行う「ドック」と呼ばれる施設には、巨大なポンプが付いていて、学校のプール約126杯分の水を満たすドックの中の水を3時間30分で空にすることができます。



ドライドック

陸上部門

同社では、棧橋や橋梁、GPS 波浪計など海に関する設備をはじめ、送電線の鉄塔や火力発電所・清掃工場の煙突といった鋼鉄製の大型構造物の製造・工事も手掛けています。造船で培ってきた高い技術が、生かされています。



鋼鉄製棧橋

企業情報

株式会社ヤマニシ

所在地 石巻市西浜町1-2
TEL 0225-82-5551
<http://www.yamanishi-miyagi.co.jp/>



代表取締役 長倉 清明
資本金 21億円
設立 1920年3月
従業員数 148人(2019年6月現在)
事業内容 造船業、船舶修理、鉄構造物製造業、損害保険代理業、生命保険代理業
経営理念 常に改善 常に前進

高校を卒業後、同社への入社が叶った櫻井さん。機装部門に配属された1年目からプロに求められる精度の高さに戸惑う先輩の教えを必死にメモに残す

「船の形に組まれた鉄板を溶接する作業者の姿や、溶接面の仕上がりをみて感動しました。高校で初めて溶接を学んで、面白いと思っていたので、自分もこの会社で就職して大きな船を作ってみたいなと思いました」

石巻市出身の櫻井さんが、ものづくりの事に興味を持ったのは、小学6年生の頃

高校3年生の時に造船所を見学圧倒的なスケールに心が揺さぶられる

付けを担当する櫻井さんは、注意深く作業を進めているという。作業の安全面についても注意を怠らない。「船体の内部は狭いところが多く、構造も複雑です。けがや事故を起こすことがないようにヘルメットやマスクの着用はもちろん、常に安全を意識して作業しています」と櫻井さんは話した。

当時、クリーニング店を営む実家が、東日本大震災による津波で浸水被害を受けた。海水を被り壊れてしまった店の設備を復旧させる修理業者の姿に、櫻井さんは心を奪われた。「機械に向かっているいろいろな工具を使い、元に戻していく作業をそばで見てカッコイイと思いました」

中学校を卒業後、石巻工業高校の機械科へ進学し、機械加工や溶接などのものづくりの基礎を学んだ。そして就職活動を控えた高校3年生の夏、櫻井さんは同社へ見学に訪れた。

仕事
図鑑

CASE

02

伝統技術と最新技術が融合 造船で海上輸送の未来を拓く

配管工

櫻井 汰生さん(20歳)

株式会社ヤマニシ(石巻市)

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

船舶の安全な航行と人の命を守る
多種多様なパイプを張り巡らせる

洋上で活躍する姿を思い描いて
配管に魂を注ぎ込む



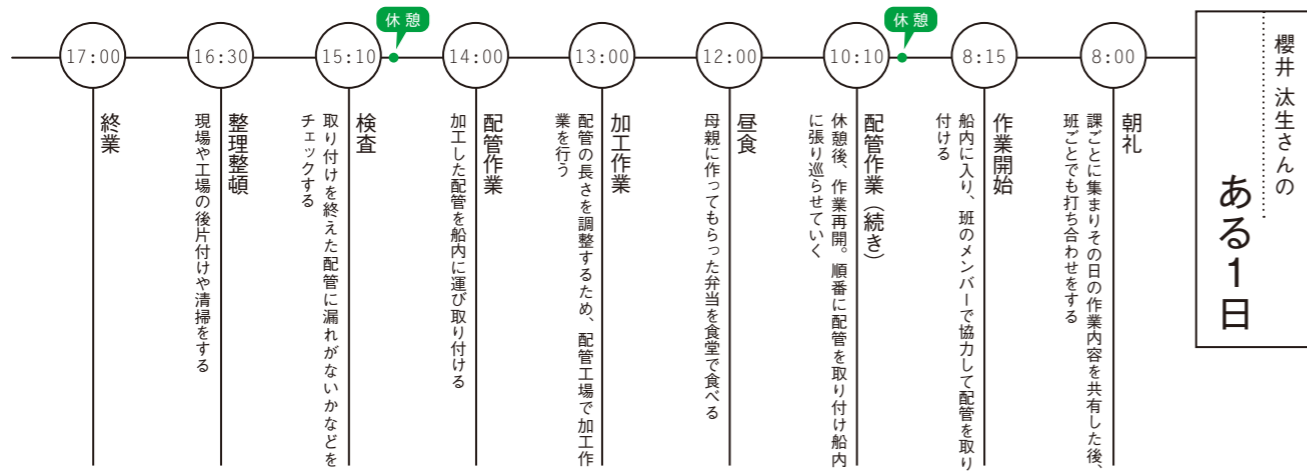
2本の配管の接合部分をボルトで固定する櫻井汰生さん



配管を機械でカットして長さを微調整する



溶接して金属同士をつなぎ合わせる



メモ帳には配管の種類や作業内容などが書き込まれている



図面を開いて作業の進め方を上司に相談する



資材置き場から必要な配管を選び出す



未来のACEへ
先輩からの
アドバイス

私が高校で溶接に興味を持ったことが、この会社に就職先を決めた理由の一つだったように、みなさんも自分が得意なことや興味を持ったことにチャレンジできる職場を探してみてください。そのためには、普段からいろいろなことに興味を持って、視野を広げることが大切です。

ものづくりの仕事の魅力は、自分の手で作ったものが製品として残ることだと思えます。製品が形になった時に感じるやりがいと達成感最高です。それらを味わうために、毎日集中して仕事に取り組むことができます。

特に造船はスケールが大きく、作りがいがあります。また、宮城県は漁業や水産業が盛んなところで、それを支える造船の仕事にみなさんも興味を持ってくれるとうれしいです！

上司に聞く



生産部 機装課
課長代理
阿部 貴昭さん

どんな仕事にも積極的に取り組む姿勢を評価
さらに知識を深め活躍の場を広げてほしい

どんなに難しい作業にも率先して取り組んでくれる。与えられた仕事が終わってもハキハキとした声で「次は何をしますか？」と上司や先輩に進んで指示を求める。こうした櫻井君の仕事に対する積極的な姿勢は、とても素晴らしいと思っています。

班の中では一番若手で、彼にとつて親と同年代の先輩社員や協力会社の社員とも接することがある職場で、上手に周囲とコミュニケーションを取り、先輩たちから可愛がられています。

配管の仕事は覚えることが多いので、まだ分からないことが多いと思いますが、引き続き前向きに努力を続けてほしいと思います。その後は、造船全体に関する業務や安全面に関する知識を深めてさらに仕事の幅を広げ、これから入社する後輩の指導の面でも活躍してくれることを期待しています。

ができたという。

造船は高度で緻密な技術の結晶
これからも様々な船舶を送り出したい

船舶には、櫻井さんが心惹かれた溶接技術のほか、「ぎょう鉄」と呼ばれる加熱と冷却を繰り返し厚い鉄板を曲げていく技術など、多くの熟練技が施されている。「造船はスケールの大きなものづくりですが、一つ一つの作業はとても高度で繊細です」と説明する櫻井さんは、そのギャップが造船の魅力であると感じている。

同社で数カ月から一年以上かけて完成した新造船を初めて海に浮かばせる進水式。自ら製造に携わった船に乗り込み、船上から門出を祝うことができた時は、とても感動したという。

「でも、進水式でホッとできたのは最初の一隻だけ。洋上での試運転を経てお客様の前へ納めた船舶が、無事に航行しているという知らせを聞いてようやく安心することができるといいます」と明かし、プロとしての意識を垣間見せた。そして、「港で停泊する漁船の中から自分が作った船を見つけた時や、定期検査のために工場に戻ってきた船を見かけた時はとてもうれしいです」と笑顔で話した。

「これからは知識と技術を増やして、新しい船を送り出していきたいです」と意気込みを語る櫻井さんは、今日もひたむきに船に命を注いでいる。

CASE 02
仕事図鑑

伝統技術と最新技術が融合
造船で海上輸送の未来を拓く

配管工
櫻井 汰生さん (20歳)
株式会社ヤマニシ (石巻市)

ここがACEポイント！

大きな船舶の製造現場では、複数の作業員が協力して作業をすることが多い。効率良く確実に進めていくチームワークを鍛えるには、毎日の円滑なコミュニケーションが重要だ。「そのため、日頃のあいさつを特に意識しています」と櫻井さん。チーム内の声掛けの積み重ねが一体感を生み、高品質のものづくりにつながっている。

CASE
03
仕事
図鑑

幅広い市場に電子部品を供給し 社会・産業・暮らしを支える

検査
たかくら しょう
高倉 翔さん (27歳)
株式会社若柳タムラ製作所 (栗原市)

航空宇宙産業向け電子部品の
電気特性検査や外観検査を担当

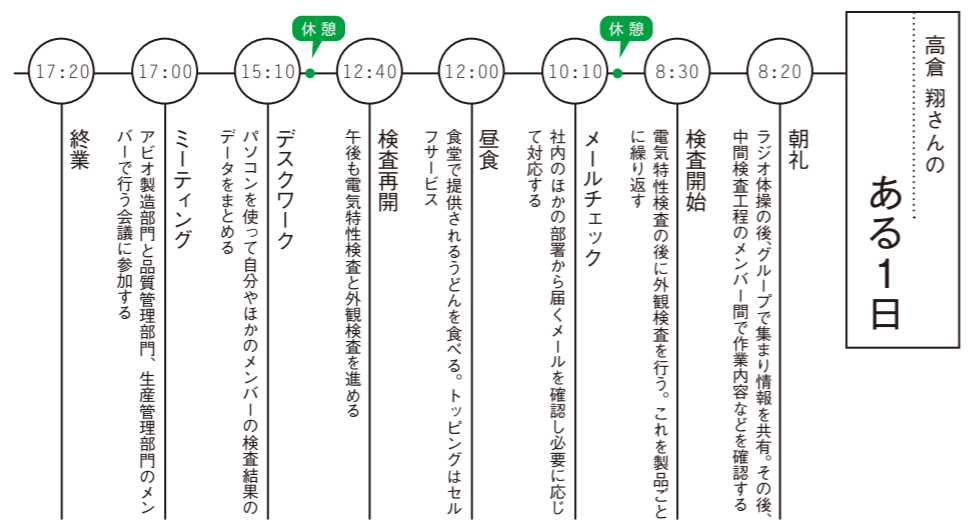
株式会社若柳タムラ製作所では、電子機器の電流を安定させたり電圧を変換させたりするチョークコイルやトランス、リアクタなどを作っている。高性能で高品質な同社の電子部品は、家電や産業機器をはじめ、自動車や航空機、人工衛星など幅広い分野で活躍。同社製のトランスは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）から宇宙用標準部品の認定を受ける唯一の製品である。
同社のアビオ製造部門で働く高倉翔さんは、検査機器の端子にコイルをセットし電



異常は絶対に見逃さない
確かな検査で信頼を守る



1 中間検査で製品の電気特性をチェックする高倉翔さん
2 検査機器が測定したデータは、パソコンに送られる。寸法などデータによっては、検査担当者が直接入力するものもある
3 交流電流の電圧を制御する「トランス」と呼ばれる電子部品製造で技術の礎を築いてきた同社。電子機器に組み込まれる「チョークコイル」(右)や「リアクタ」(左)など様々な電子部品にも、長年培われてきた同社のトランス製造のノウハウが生かされている



製品にキズなどがいないか顕微鏡で外観検査を行う



パソコンを使って検査結果のデータを集約する



作業の進行状況などについて上司と情報共有する



中間検査を待つ製品を棚から取り出す

企業情報
株式会社若柳タムラ製作所
所在地 栗原市若柳字川南上堤 40-1
TEL 0228-32-2211
https://www.tamura-ss.co.jp/
※株式会社タムラ製作所ウェブサイト

代表取締役社長 木村 明
資本金 4億8,000万円
設立 1966年10月
従業員数 113人(2019年4月現在)
事業内容 電子部品・デバイス・電子回路の製造
経営理念 人々の幸せを育むため、タムラにしかできないこと、タムラだからできることを極め、お客様や社会に喜んでいただける製品・サービスを提供し続ける「オンリーワン」カンパニーを目指します。

品ごとに検査のポイントをまとめた。新しい製品には、類似品のデータを自分で調べ特性を覚えていくという。
「責任と不安を感じる中、コツコツと経験を積んでいきました。入社4年目になってようやく不安なく仕事ができるようになりました」と話す高倉さん。現在、アシスタントリーダーとして、リーダーのサポートや作業の振り分け、検査データの取りまとめなどの業務も担当している。
アビオ製造部門で作られる電子部品は、航空機のほかにも人工衛星など宇宙分野でも使われている。高倉さんは、「国産のロケットにも私たちが製造に関わったトランスが使われています。打ち上げに成功した時は感激しました」と話す。
これからも責任をもって最高の製品を送り出し続けたい。高倉さんの表情は充実感に満ちていた。

未来のACEへ
先輩からのアドバイス

私は、岩ヶ崎高校(栗原市)の普通科を卒業後に東北職業能力開発大学校でものづくりの基本を学びました。もし、みなさんの中に「ものづくりに興味はあるけれど、工業系高校で専門的なことを勉強していないから……」と悩んでいる人がいたらその心配は無用です。ものづくりに興味がある人は、進学や就職を考えチャレンジしてみてください。

電気特性の計算式に数学や物理の知識が必要だったり、専門用語の意味を調べるために英語の知識が必要だったり。むしろ、みなさんが普段高校で学んでいる教科の大切さを実感しています。

ですから、みなさんには今勉強していることを大切にしたいと思っています。高校で勉強したことは、将来仕事を覚えるための基礎として役に立ちますし、「学ぶ姿勢」を、日頃から養うこともできるはずです。

気特性を確認していた。「アビオ(Avio)」とは、航空機に搭載する電子機器を意味する造語「アビオニクス(Avionics)」の略語のこと。高倉さんは、製品が規格通りに作られているかなどを製造工程の途中でチェックする「中間検査」を担当する。
「航空機には高性能の電子機器が多く搭載されているため、電気特性などの規格が厳しく設定されています」と説明する高倉さん。電気特性の検査中は機器の数値のほか、通電中の製品が発する振動や音の微妙な変化に注意を払う。また、過去の検査データと照らし合わせ、測定値にばらつきがないかについても目を光らせる。
「中間検査の測定値がばらつく、製品の最終検査で不良が見える場合があります。そのリスクを未然に防ぐことも、中間検査を担当する私の役目だと思っています」
高性能・少量多品種のアビオ製品
各製品の知識を地道に習得する
東北職業能力開発大学校(栗原市)の生産技術科を卒業後、同社に就職した高倉さん。入社1年目からアビオ製造部門に配属され、製造工程を一通り学んだ後、2年目から中間検査を任せられた。
少量多品種の製品を手掛ける同社において、「最初の頃は、検査に必要な製品や技術に関する膨大な知識を覚えることがとにかく大変でした」と振り返る。高倉さんは、先輩のアドバイスをノートに書き込み、製

企業情報

株式会社東北スヤマ

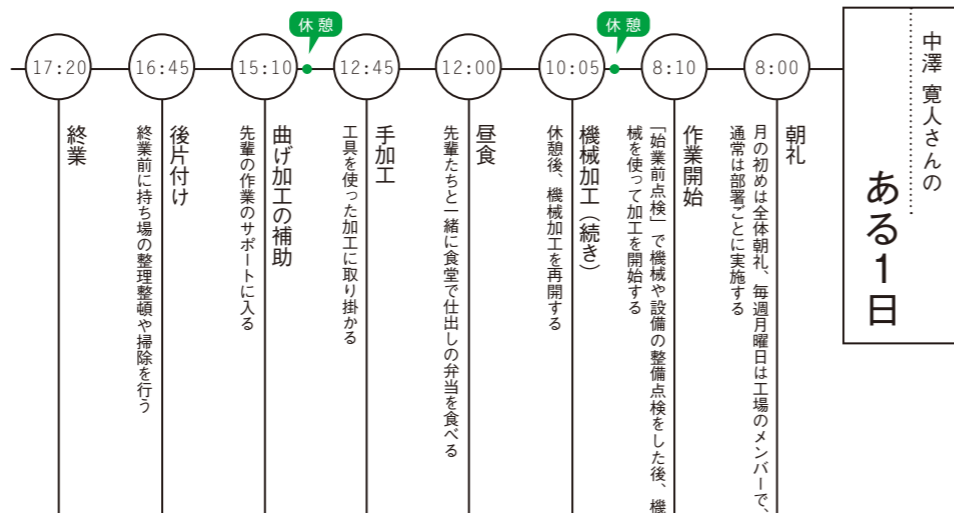
所在地 柴田郡村田町小池 32-6
TEL 0224-83-5903
http://www.thksuyama.co.jp/



代表取締役社長 白石 進
資本金 1,500 万円
設立 1996 年 5 月
従業員数 48 人 (2019 年 6 月現在)
事業内容 防火・防音・断熱等の各種スチールドアの製造販売
経営理念 私どもは、お客様は勿論、取引先、株主、従業員、地域社会、並びに自然環境との共生のために常に自己研鑽に務めることをお誓いします。



工具を使った穴開けなどの手加工を行う



自動タレットパンチプレスにセットする金型のホルダを清掃する。こまめな整備が大切



作業の合間に先輩社員が担当する曲げ工程のサポートに入る



伝票に記載されたバーコードを読み取り、加工データを自動タレットパンチプレスに送る

未来の ACE へ
先輩からのアドバイス

私は製造業の仕事について、「一人で黙々と作業する」イメージを持っていました。でも実際は、みんなで協力して作業をしたり、それぞれの持ち場で連携したりするチームワークが必要な仕事です。力を合わせて一つのものを作り上げるので、とてもやりがいを感じますし、先輩や仲間と達成感を共有できるのもうれしです。

共同作業が多いため、日頃からのコミュニケーションが大切です。分からないことがあれば、自分から積極的に人に聞くことが大事です。人に話しかけることや何でも聞く事に高校生のうちから慣れておくと良いでしょう。就職先を決める時も、先生やほかの大人に聞くと、その会社についての情報やどんなものを作っているかなど様々なことを知ることが出来るはずです。



ものづくりに携わる一員として
責任をもってやり遂げる

CASE 04
仕事 鑑

スチールドアが創る
快適で安全な空間

検査 中澤 寛人さん (19 歳)
株式会社東北スヤマ (村田町)

巨大なプレス加工機を操り
スチールドア加工の先陣を切る

「この機械は『自動タレットパンチ』と言います。この機械で金属の板を切ったり穴を開けたりします」

説明するのは、株式会社東北スヤマで働く中澤寛人さん。入社2年目の新人だ。タレットパンチの正式名称は、「タレットパンチプレス」。板金の打ち抜き加工で用いられるプレス機械の一種である。丸形や四角形をした様々な形の金型を駆使して金属板を打ち抜き成形加工する。

「日頃の整備点検はもちろん、機械の取



- 1 自動タレットパンチプレスに装着する金型のメンテナンスをする中澤寛人さん
- 2 スチールドアのフレーム加工は、大きな鉄板を使用するため、安全を確保して慎重に取り扱う
- 3 別のタレットパンチを操作し、部材に穴を開けていく

り扱いには十分気を付けています。身だしなみにも注意して安全な作業を心掛けています」と中澤さんは話した。

同社は、防火・防音・断熱などの機能を持ったスチール製ドアを製造する。同社が建築物の仕様に合わせたオーダーメイド品で、全てが受注生産。設計から加工、組立て、塗装、施工までの一貫生産で、東北や首都圏の高層ビルや商業施設、公共施設など様々な建築物での施工実績がある。

「とても有名な建物にも使用されているんです」とちよっと誇らしげに話す中澤さんは、1枚の鉄板からスチールドアのフレームに使われるパーツなどを切り出す工程を担当する。加工の最初の工程だけに責任を感じているという。

「どの案件から始めるか、順番を間違え

初めて見たものづくりの現場に心が動く先輩に支えられ成長する日々

村田高校で商業を学んだ中澤さんにとって、ものづくりは未知の分野だった。高校3年生の時、先生の紹介で地元企業である同社を初めて見学した。

職場は活気にあふれ、社員が優しく丁寧に案内してくれたという。工場では溶接や塗装の現場を見学し、金属部品の取り付け作業を体験することができた。「ものづくりは楽しい」と直感した中澤さんは、同社へ